

三原市立宮浦中学校第2学年 英語科学習指導案

単元名 : Lesson 6 Uluru

指導者 : 三原市立宮浦中学校 陽山 祐俊

- 1 日 時 : 平成27年 10月 16日 (金) 第5校時
2 場 所 : 2年2組教室
3 学年・学級 : 第2学年2組 (30名)
4 単元名 : Lesson 6 Uluru

(1) 単元観

本単元を通して、中学校学習指導要領解説外国語編(平成20年9月)第2章第2節2内容(2)言語活動の取扱い(ウ)第2学年における言語活動「第1学年の学習を基礎として、言語の使用場面や言語の働きを更に広げた言語活動を行わせること。その際、第1学年における学習内容を繰り返して指導し定着を図るとともに、事実関係を伝えたり、物事について判断したりした内容などの中からコミュニケーションを図れるような話題を取り上げること」を意識して指導する。

この単元ではオーストラリアを舞台に、先住民について、また彼らが大切にしているものについて知ることとなる。その中で地域文化を尊重することを学び、旅の楽しさについて考えることとなる。その時に《give / tell / showなどの動詞 + [人]に + [もの]を》の構文やlook ~ (～そうに見える)という表現が必要となってくる。「[人]に[もの]を～する」という文や「～そうに見える」というよく使われる表現を学習することで、これまでよりも表現の幅が広がる。身近な例を用いながら使える・表現できる力をつけたい。

(2) 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本校として以下の資質・能力の育成に重点を置く必要があるとした。

【知識・スキル】①課題解決力②知識・情報活用能力③表現力④コミュニケーション能力

【意欲・態度】⑤協調性・柔軟性⑥責任感⑦主体性・積極性

【価値観・倫理観】⑧自己理解⑨共感力⑩公共心⑪人としての思いやり

【知識・スキル】②知識・情報活用能力

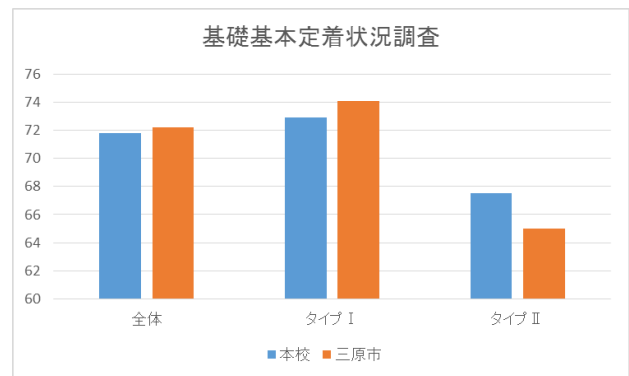
・これまでに「[もの]を～する」や「～だ」という文構造は学習している。目的語[人]を目的語[もの]の前に置かれることで「[人]に[もの]を～する」という文になることや、lookを使うことで「～そうに見える」という表現になることを理解させ、定着させる。

【知識・スキル】③表現力

・様々な話題の中で、また自分や周りの人の行動を説明する中でよく使われる表現である。また、今単元の目標の1つに「観光・旅行への興味と現地の人々への配慮との折り合いについて意見を述べることができる」とある。その中で上記の表現が使える能力を身につけさせる。

(3) 生徒観(調査結果からみる課題)

下のグラフは今年度の「基礎・基本」定着状況調査の結果である。タイプⅡは三原市と比べて2.5ポイント高いが、タイプⅠでは1.2ポイント低く、全体でも0.5ポイント低い結果となった。特に「英語の問いかけに対する適切な応答」と「自分の考えや気落ちなどが正しく伝わるように話す」の通過率は40%以下と低くなった。ここから相手のいうことを聞き取る〈聞く〉力や自分のことを表現する〈話す〉力の基本的な部分が定着しきれていないことが分かる。



(4) 指導観 (指導改善のポイント)

本校の研究テーマは『コンピテンシーの育成をめざした学びの創造』～コミュニケーションを活用した授業の工夫を通して～である。この単元において、コミュニケーションを活用し、生徒に基本的な知識を習得させるとともに、知識・情報活用能力と表現力の育成を図っていく。

知識・情報活用能力の育成の手立てとして、授業の中で質問がでた際は、既習内容であっても全体に返して説明・会話練習等の時間を設けるようにしている。生徒に疑問点などがあれば早めに解決し、適切な指示が出せるようにしていきたい。また、ワークシートやカードを使い視覚に訴えながら自ら語順を確認して書かせる〈書く〉ことやリスニング問題を活用し相手のいうことを理解させる〈聴く〉ことで知識の能力を向上させたい。

表現力の育成の手立てとして、それぞれ単元末の We're talking ではスキルを覚えさせて会話させるだけでなく、アドリブ等のパフォーマンスも入れた会話に取り組んでいる。自分の身近な行動を言葉に少しでも多く声に出させて〈話す〉相手に伝えることにより、自然に文の形が作れる・表現できる力をつけたい。

5 単元の目標と評価規準

単元の目標

- オーストラリアに関心を持ち、先住民と彼らが大切にしているものについて知る。
- 《 give など + A(人) + B(もの) 》「AにBをあげる」という文を理解し、説明することができる。
- 《 look + 形容詞 》「～のように見える」という文を理解し、使うことができる。
- 観光・旅行への興味と現地の人々への配慮との折り合いについて意見を述べるができる。

単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① 積極的に give など +A+B, look など+形容詞の文型を使って説明しようとしている	① 伝えたい内容によって語句や表現を選択し書くことができる	① 会話を聞いて、その内容を聞き取ることができる ② 新聞のコラムを讀ん	① give など+A+B, look など+形容詞に関する知識を身につけている

		で、その内容を読み 取ることができる	
--	--	-----------------------	--

6 指導と評価の計画

全8時間 (本時は1/8)

次	学習内容 (時数)	主な学習内容				資質・能力の評価 (評価方法)
		関	表	理	知	
1	GET Part 1 課題の設定 (2)				○ エ① give など+A+B, に関する知識を身につけている ア①積極的に give など+A+B の文型を使って説明しようとしている	② 知識・情報活用能力 (ワークシート) ③ 表現力 (行動観察)
2	GET Part 2 課題の設定 (2)				◎ エ① look など+形容詞に関する知識を身につけている ア①積極的に look など+形容詞の文型を使って説明しようとしている	
3	USE Read まとめ・創造・表現 情報の収集 (2)				◎ ウ② 新聞のコラムを読んで、その内容を読み取ることができる	
4	USE Listen まとめ・創造・表現 情報の収集 (1)				◎ ウ① 会話を聞いて、その内容を聞き取ることができる	
5	USE Write まとめ・創造・表現 振り返り (1)				◎ イ① 伝えたい内容によって語句や表現を選択し書くことができる	

7 本時の展開

(1) 本時の目標

give など +A(人)+B(もの) の形を理解し、表現することができる。

(2) 観点別評価規準

◎ give など +A+B に関する知識を身につけている 【エ①】

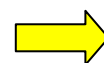
評価方法： 本時の評価シート(問題)

(3) 準備物

ワークシート、カード、問題集

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項 (■) (努力を要する生徒への指導の手立て◆)	○育成しようとする 資質・能力 ●評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○既習内容の復習 ○本時の流れを確認 <p>課題の設定</p>		
<p>【本時の目標】 give など +A(人)+B(もの) の形を理解し、表現することができる。</p>			
展開	<p>集団思考</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単語カードやピクチャーカードを使って語順を確認 <p>個人思考</p> <ul style="list-style-type: none"> ○give 以外の動詞で「A(人)に+B(もの)を~する」という表現がないか考えさせ、例文を作らせる <ul style="list-style-type: none"> ○ワークを使って語順を確認 	<ul style="list-style-type: none"> ■全体での声出しがメインとなるので、声を出そうとしていない生徒や出せない生徒に注意を払う ◆簡単な文章を発言させてみることでどこで分からなくなっているのか、把握し、補足説明を加える。 ◆机間巡視をする中で、声掛けをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 知識・情報活用能力 既習の動詞があげられるか ⑤ 表現力 本時の学習をもとに英文にできるか



ま と め	<p>○(本時の)評価問題</p> <p style="text-align: center;">まとめ・創造・表現</p> <p style="text-align: center;">振り返り</p>	<p>問題シートを回収して理解できていない生徒に対しては次時の導入で確認していく</p>	<p>●give など + A + B に関する知識を身につけている</p>
-------------	--	--	--

(5) 板書計画

本時の目標 : give など +A(人)+B(もの) の形を理解し、表現することができる